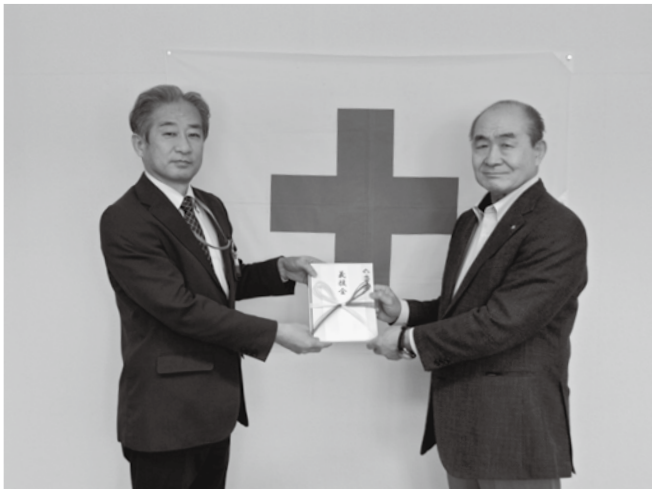


2/26 自閉症をはじめとした発達障がいにご理解とご支援を
セルフサイン首長リレー



毎年4月2日は、国連が制定した「世界自閉症啓発デー」、4月2日～4月8日は「発達障害啓発週間」です。自閉症をはじめとする発達障がいに対する理解と支援の輪が深まり、障がいのある方だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会となることを願い、世界各地でさまざまな活動が行われています。当日は、北海道自閉症協会のメンバーが市役所を訪れ、世界規模で展開する啓発キャンペーン「Light It Up Blue（ライト・イット・アップ・ブルー）」を応援するプレートに、「この活動が他市にもつながるように」と願いを込めて横田市長が署名しました。

2/14 千歳市職員福利厚生事業実行委員会
能登半島地震災害義援金を寄付



千歳市職員福利厚生事業実行委員会（佐藤 勇 委員長）は、1月1日に発生した《能登半島地震》の被災地を支援するため、1月15日から31日までに職員から寄せられた「令和6年能登半島地震災害義援金」449,690円を、「少しでもお役に立てれば」との思いを込めて、日本赤十字社北海道支部千歳市地区協賛委員会へ寄付しました。義援金は、被災地県に設置される災害義援金配分委員会を通して被災された方々に届けられます。

2/3 今年もファイターズガールが登場！
ニューサンロードにぎわいフェスタ



ニューサンロードの冬の恒例行事、にぎわいフェスタが開催され、冬の商店街が大勢の来場者で埋め尽くされました。イベントの中盤には、昨年に続きファイターズガールが登場。大歓声が響く中、《ジンギスカンダンス》や《きつねダンス》などのパフォーマンスで会場を盛り上げました。寒中綱引き大会では、千歳ソフトボール協会チームが昨年決勝で敗れた雪辱を果たし、優勝を飾りました。

2/21 元競泳日本代表の岩崎恭子さんが講演
ライフプランセミナー



千歳市季節労働者通年雇用促進協議会が、元競泳日本代表でスイミングアドバイザーの岩崎 恭子さんを招き、《ライフプランセミナー》を開催しました。岩崎さんは「泳縁（えいえん）～金メダル獲得後の挫折と学び～」と題し、14歳の若さでバルセロナ五輪金メダリストとなった後の経験を紹介。過剰な注目によって周りの環境が一変したことで、一時は水泳をする喜びを感じられなくなったものの、同年代の選手の活躍などに刺激を受けて立ち直るまでのエピソードを披露しました。最後に、大事にしていることとして「①泳縁（水泳でつながる縁）、②素直さ、③しあわせ」の3点を挙げていました。岩崎さんは現在、水辺の安全教育に力を入れており、着衣泳を広めるプロジェクトを展開しています。

2/12 地元有志がアイディア結集
CHITOSE MIRAI KAIGI 2



地元の有志が集まって千歳の未来を語り合う《CHITOSE MIRAI KAIGI 2》がまちライブラリー@ちとせで開催されました。会議は一昨年12月に続く2回目の開催で、タレントの豊澤 瞳さんらおなじみのメンバーも引き続き参加。まちの顔エリアの活性化を図るエリアマネジメントの手法について学びながら意見交換し、千歳のまちなかに対する思いを語り合いました。かじはらみきさん、おがわなおこさんの2人は、「グリーンベルトでモルック大会」、「商店街のレトロな街並みを背景に着物撮影会」などユニークなアイディアを提案。まちおこしユニット《いくらべーす》の立ち上げを宣言し、「一緒に私たちと商店街を盛り上げませんか」と呼びかけました。

人々のうごき

《総人口》
97,784人（－135）
男性 49,669人（－90）
女性 48,115人（－45）
《世帯》52,107世帯（－89）
（ ）内は、前月との比較です。

3-1 現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

Vol. 11 人物伝 酒井憲次郎② Chitose Airport 100th anniversary

酒井と旧知である高橋航空士は、燃料が満載されたプス・モスを見て、酒井が満州国首都の新京から日本本土までを無着陸で横断するつもりなのだと察しました。

昭和7年9月15日、日本は満州国を承認し、日満議定書に調印。他社に先駆けて調印式の写真を日本本土に空輸する事を画策した朝日新聞でしたが、自社機プス・モスと大阪毎日新聞の最新鋭機アルテアとの間には、性能に歴然の差がありました。「大毎に勝つには、これしかないのです」「しかし、それでは」

あまりに無謀だ――。その言葉を飲み込んだ高橋でしたが、酒井の腕と実績、そして決心のほどを信じ、何も言わず見送ることにしました。

午前11時10分、酒井は機関士の片桐庄平とともに新京飛行場を離陸。機首を南東に向け、日本海の彼方へと姿を消しました。

その日、酒井機が到着するはずだった大阪飛行場は豪雨となり、山陰地方も暴風雨に見舞われていました。

到着予定時刻の19時30分を過ぎても酒井機は現れず、16日午前0時30分、プス・モスの最長航続時間を過ぎても消息を絶ったまま。翌17日の朝日新聞には、次の見出しが掲げられました。「新京から飛んだ本社機行方不明」（続く）

▲片桐機関士、酒井操縦士と朝日新聞機プス・モス

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港100年の歴史を振り返る

ちとせ空港 百年物語